

奄美 シマの 自然と文化を 世界へ!

発行：環境省奄美自然保護官事務所・奄美群島観光連盟

NEWS

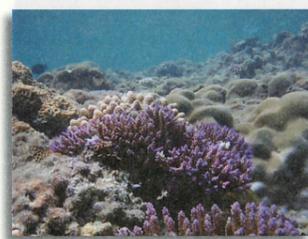
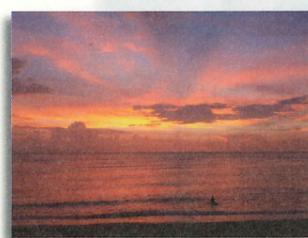
このニュースレターでは、奄美群島にお住まいのみなさんに、世界自然遺産登録や国立公園指定に向けた取組状況をお知らせします。ぜひお読みいただき、奄美のことを一緒に考えていきましょう!

LETTER

～世界自然遺産への道～

世界自然遺産とは?

世界自然遺産とは、文字通り、世界の遺産として守っていかなければいけない、また、守っていく価値のある自然です。日本では、屋久島、白神山地、知床だけ、世界でも176件しか登録されていない世界の宝です。アマミノクロウサギをはじめとする固有の動植物が多く生息・生育する奄美の森林は、世界自然遺産の価値があると国内外の専門家が認めています。



ではなぜすぐに登録できないのか。世界自然遺産になるためには、その価値が将来にわたって守られるという法的な担保(国立公園指定など)が必要です。奄美では、特に森林の保護が課題です。

国立公園とは?

国立公園とは、簡単に言うと、「世界自然遺産=世界の宝」に対して、「日本の宝」と言えるでしょう。奄美では、「世界の宝」として推薦する前に、まずは「日本の宝」として国立公園に指定することになります。(登録までの道のりは3ページ参照) 環境省では、今年10月から「奄美地域の国立公園指定及び管理に関する検討会」を始めました。奄美をどんな国立公園にするのか、地域の方々の声、専門家の意見を聴きながら検討していきます。遺産登録のための国立公園というだけでなく、地域に貢献できる国立公園にすることが重要だと考えています。



島コンシェルジュ 「伝え方実践講座」

十月二十五日(大雨) 日直・奄美群島 広域事務組合
島コンシェルジュ。シマの自然、文化、歴史。あらゆる魅力を伝える人々のこと。そのために必要な知識を日々学んでいる。はたして、伝えるために必要な技能とは? しかし今回は、「習うより慣れる」がモットーの鬼コーチ。そのたくらみを知らぬコンシェルジュたちの運命はいかに?



奄美自然学校 永江鬼コーチ



鬼の一言。半泣きの皆さん。そこへ更なるプレッシャーが...

にげるか...

きいてないし...

はい、そういうことで、今日は皆さんがしゃべる人で...

キョロ

ナント! テレビの取材!



ゲロツ

心臓バクバクさせて人前に立ち...



ち... ちかい 近すぎたってば...



え〜、これがモダムと言いました〜

結局、全員何度も人前で話す練習をし、さらには、お互いに技能チェックもしたりして...

大切なのは、技能より、伝えたい想いと熱意なんだと気づきました。

わきゃシマ一番!

チエック項目 ありすぎたし

そして練習、また練習。それでも頑張った皆さん。

わきゃシマ 前へ 前へ 前へ

編集後記

ミーニシが吹いて、亜熱帯のわきゃシマにも冬の気配。いよいよイザリシーズン到来ですね。大潮の夜が待ち遠しい方も多いのでは。そんな暮らしができる自然があるのは、本当に幸せだと思います。わきゃシマの自然と文化を未来へ。またいろいろな情報を発信できたらと願っています。 連絡先：環境省奄美自然保護官事務所 電話：0997-55-8620 (黒豚編集長)

～コラム～ 奄美の山ひとり歩き

奄美の自然を知りたくて、山を歩いています。「トートガナシ」と心の中で唱えながら山奥深く分け入っていくと、「こんなところに!?!」と思うような場所で昔の人の生活の痕跡と出会いビックリさせられることがあります。そんな時は、少し足を止めて昔の島人の山との関わりってどんなだったのだろうかと思いを巡らせてみることにしています。(T)



↑ 炭がま? 藍がま?



↑ 山の神のほこら

奄美新時代 世界遺産と

それぞれの思い



■あいにくの雨にもかかわらず、多くの人が集まった公開セミナー

「世界遺産と奄美新時代」という公開セミナーが奄美市の名瀬で開催されました。一般市民など100名が集まり、奄美の将来をどう考えるかについてたくさんの意見が出ました。奄美は早ければ7年後に世界自然遺産になる可能性があります。世界遺産登録を奄美の未来に活かす道はなにか、いまから準備しておくことが大事です。

セミナーで私の心に残った発言を3つあげます。

1 今日聞いた奄美の素晴らしさの話を学校でみんなにして、奄美の中から奄美を変えていけるようにしたい。 大島高校3年女生徒



2 最近世界遺産のガラパゴスに行ってきた。ガラパゴスより奄美の自然の方がずっと素晴らしく豊かだ。もっとこの自然に自信を持って、今後は東洋のガラパゴスなどと言わないで欲しい。 鹿児島大准教授(植物学者)



3 元ちとせや中孝介が東京や全国でメジャーになるのは嬉しい。しかし、島の音楽や文化が奄美の中で再認識され、島の誇りにつながっていくようになったらもっと嬉しい。 あまみエフエム主宰者

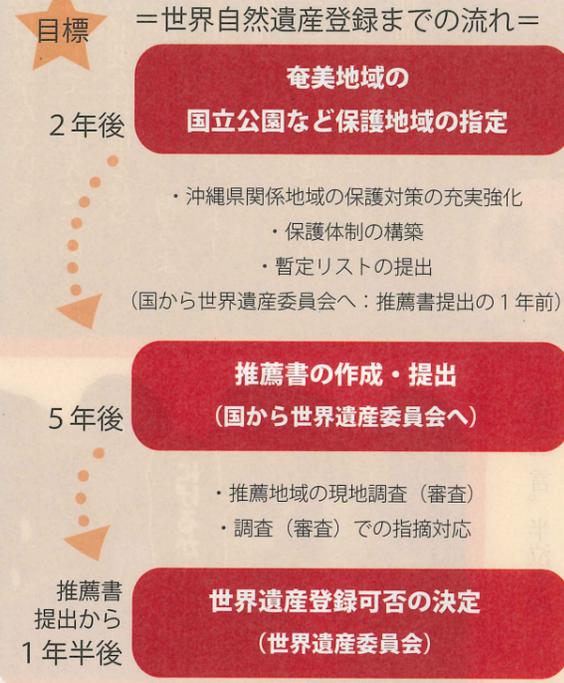
このセミナーは奄美市名瀬の奄美観光ホテルで開催されました。主催したのは鹿児島大学、環境省那覇自然環境事務所、県、奄美群島広域事務組合など。9月26日土曜日の雨の午後、3時間を超える会議では面白く熱心な議論がかわされました。



■「鹿児島環境学 I」「鹿児島環境キーワード事典」ともに定価2000円+税(発行:南方新社)

主催者の鹿児島大学では昨年10月から鹿児島環境学というプロジェクトを始めました。この奄美セミナーもその事業のひとつです。今年の7月に「鹿児島環境学 I」という本を出版しました。来年出す続編の「環境学 II」では奄美を中心に書く予定にしています。このセミナーの様子もまとめて載せることにしています。楽しみにして下さい。(文責:小野寺・鹿児島大学)

世界自然遺産登録までの道のり



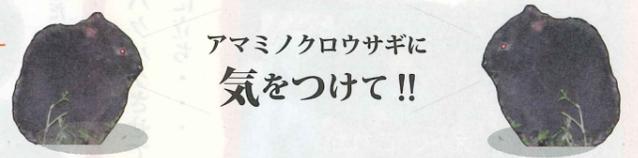
個性豊かで多様性のある自然を持つ奄美が世界自然遺産に登録されるまでにはどのような道のりをたどっていくのでしょうか?

「世界自然遺産になる」ということは、その地域の人々の宝が人類共通の宝であると認められるということです。認められるためには、それだけの価値があるというだけでなく、その宝をキチンと将来世代に引き継げるよう守っていける仕組みと取組みが必要です。

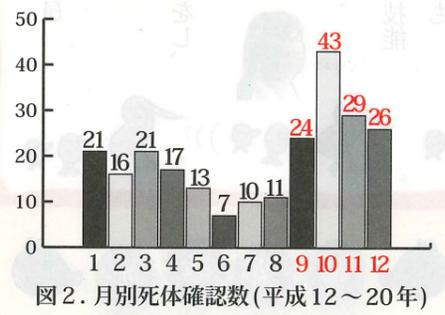
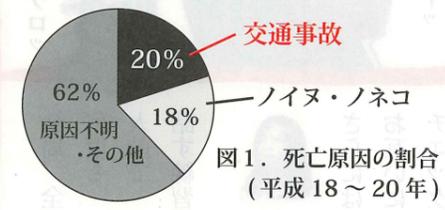
現在の奄美には、先人達が残してくれた世界的にも評価される自然を守り、子孫に引き継いでいく仕組みがあるのでしょうか? そのための取組みは十分になされているのでしょうか?

世界自然遺産登録に向けて、まずは保護地域の指定、保護対策の充実強化、保護体制作りに取り組んでいかなければなりません。

ストップ・ロードキル!



アマミノクロウサギに気をつけて!!



奄美野生生物保護センターでは、アマミノクロウサギ(以下、クロウサギ)の死体が発見・収容された場合は解剖を行い、死因を推定しています。

平成18年から20年までに確認された死体159頭のうち、32頭が交通事故死、28頭がノイヌ・ノネコによる被害でした。(確実に死因が特定できるものだけの数字)。今年も10月末までに58頭の死体を確認されており、そのうち22頭(約38%)が交通事故、1頭がノイヌ・ノネコによる被害で死亡したと推定され、交通事故死が多い傾向となっています。

月別に見ると、毎年9月から12月頃までの間に死体確認数が多く、これはこの時期繁殖のためクロウサギの活動が最も盛んになることと関係していると考えられています。

夜間の林道では時速20km以下で走行し、周りに気をつけて運転するようお願いいたします(特に9~12月!). また、犬・ねこは責任をもって飼い、捨てたりしないでください。

ケガをしたクロウサギやクロウサギの死体を発見したり、山の中でノイヌ・ノネコを見かけた場合は、奄美野生生物保護センター(0997-55-8620)までご連絡下さい。

